

2009年6月23日

丸文、薄膜系 PV 検査装置の販売を開始

エレクトロニクス商社の丸文株式会社（社長：佐藤 敬司、本社：東京都中央区、資本金：62 億 1,450 万円、以下 丸文）は、株式会社エヌエフ回路設計ブロック（社長：高橋 常夫、本社：横浜市港北区、資本金：9 億 1000 万円、以下 エヌエフ回路）の開発した、薄膜系 PV（太陽電池）製造に用いられる「高速絶縁抵抗検査装置」ならびに「太陽電池セルエージング装置」の販売を開始することになりましたので、お知らせいたします。

この度販売を開始するのは、エヌエフ回路の持つ計測・制御のコア技術を生かした薄膜 PV 系検査装置「高速絶縁抵抗検査装置」ならびに「太陽電池セルエージング装置」です。太陽電池製造ではモジュール（完成品）単位の検査から、より高いレベルの品質管理が可能な発電セル（モジュール内にある複数の発電素子）単位の検査が主流になってきています。この度の装置はそのセル単位の検査と修正を高品位高速に行うことができる製造ライン専用検査装置です。

【新製品 1. 「高速絶縁抵抗検査装置」について】

レーザーパターニングにより絶縁分離された透明電極セルの良否判定、品質管理に用いられます。電極 160 チャンネルを搭載することで、100～160 セルを短時間で検査できるほか、高電圧の印加によって微細な電極線幅がスパークしないように、低電圧印加によるセルへのダメージを回避した測定が可能となり、後工程における無駄な工数の削減や、歩留まり向上などの導入効果が期待できます。

【新製品 2. 「太陽電池セルエージング装置」について】

レーザーパターニングによって背面金属薄膜電極膜層を分離した際に、セル単位のばらつき検査と、ピンホールやマイクロクラックなどの不良セルに対して電極間への電圧印加による修正ができます。従来はソーラーシミュレータによるモジュール単位の検査が行われていましたが、薄膜系 PV ではセル単位での管理が今後必要となる中で、発電しているセルの状態を検査することに加え、全セルに電圧を印加しセルを修正できるため、高度な品質管理が可能です。

丸文では、先に開発・発表した薄膜系 PV 製造用「非停止レーザーパターニング装置」により薄膜系 PV 市場に参入しましたが、この「高速絶縁抵抗検査装置」と「太陽電池セルエージング装置」を併せて提供することにより、歩留まり向上と発電効率の向上など、薄膜系 PV の製造・検査における品質向上に貢献できると考えています。

丸文では、国内の PV メーカー向けに販売し、3 年間 20 億円の売上げを目指します。

< 株式会社エヌエフ回路設計ブロックについて >

本 社：神奈川県横浜市港北区綱島東 6-3-20

創 立：1959 年 4 月 27 日

代 表 者：代表取締役社長 高橋 常夫

従 業 員：199 名（2008 年 3 月 31 日現在）

資 本 金：9 億 1000 万円

事業内容：高精度な計測・制御を実現する独創の技術を核に、電子計測器、電源機器、電子部品、カスタム応用品の 4 つの事業領域で展開している電子応用機器製造会社。
ジャスダック証券取引所に上場（コード番号：6864）
株式会社エヌエフ回路設計ブロックの詳細は、<http://www.nfcorp.co.jp/>をご覧ください。

< 丸文株式会社について >

本 社：東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1

創 業：1844 年（設立：1947 年）

代 表 者：代表取締役社長 佐藤 敬司

従 業 員：812 名（2009 年 4 月現在）

資 本 金：62 億 1,450 万円

売 上 高：1,999 億円（2008 年度連結）

事業内容：集積回路を中心とした半導体、電子応用機器など、国内外の最先端エレクトロニクス製品を販売する商社。1964 年に日本で初めてレーザーを紹介して以来、最先端レーザー発振器やレーザー加工機の輸入販売をはじめ、レーザー光源、レーザー電源などのレーザー・光学機器を幅広く取扱う。
東京証券取引所市場第 1 部に上場（コード番号：7537）
丸文株式会社の詳細は、<http://www.marubun.co.jp/>をご覧ください。

この製品に関するお問合せ先

丸文株式会社 システム事業部 レーザ微細加工推進室
担当：木野本（キノモト）
TEL：03 - 3648 - 1676 FAX：03 - 3648 - 8117

このニュースリリースに関するお問合せ先

丸文株式会社 広報室 担当：杉村
TEL：03 - 3639 - 9803 FAX：03 - 5644 - 7693
Email：koho@marubun.co.jp